

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

家庭や地域と関連させた道徳教育について、道徳の研究に取り組んでみえる講師の方と、地域で子供のために思って活動されている方の話から構想を広げた。

各学年の地域に関する教科学習や行事とからめた道徳科の授業を年間通して組み入れ、効果を期待した。道徳科の授業では、教材によって考えると同時に、自分たちの地域や経験にも結び付けて内容項目について深めることができてきた。特に、3年生の宅老所「もちのき」、4年生の環境学習、5年生の米作りは、年間を通して何度も交流があり、興味や思いの深まりを得ることができた。

1 研究推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児 童 数	備 考
西尾市立三和小学校	愛知県西尾市米野町 松葉内 25 番地	0563(52)1168	462 人	

2 研究課題

三和小学校は、西尾市の中でも自然に恵まれた地域である。東には万灯山があり、広田川、安藤川、矢作古川の三つの川が北から南へと流れている。流域には、広々とした水田地帯が広がっている。多くの児童が、「自分の家に田畑がある」と答えている。また、三世代の家庭が多く、登下校の送り迎えを祖父母がしている姿も多い。

保護者や地域の方々は、学校にとっても協力的である。校地の草刈りには多くの地域の方が参加していただける。学校行事については、ほぼ全家庭の出席がみられる。ただ、PTA活動等では「前年度と同じ」というものが多く、変化を嫌う傾向にある。

児童の性格は、穏やかで素直である。しかし、反面、引っ込み思案であり、自分の考えを伝えることが苦手である。生活アンケートは、おおむね良好な回答が多いが、「進んで意見を言うことができますか」という問いに、特に高学年では、30 パーセントの子が「苦手」としている。

また、学校職員については、担任の約 50 パーセントを 20 代が占め、たいへん若い職員構成となっている。教科を中心に研修を進めているが、まだまだ授業力不足は否めないのが実情である。

以上のことから、保護者や地域とともに、教師の授業力を高め、互いの考えを聞き合ったり、認め合ったりする楽しさを実感できる子の育成が必要だと考えた。

3 研究主題

「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実
－家庭・地域との連携を生かした道徳教育の推進－

本校の道徳教育の課題をふまえつつ、目ざす子供像を次のように設定した。

考えを伝え合い、お互いを認め合える三和っ子

目ざす子供像を実現するために、次のような研究計画を立てた。

4 研究の概要

- (1) 道德教育に係る外部講師派遣についての取組
- ア 地域や子供を理解する。
 - イ 道德の授業力の向上を図る。
 - ウ 道德の授業づくりと評価の方法を工夫する。
 - エ 地域と連携しながら進める道德教育を考え実践する。
- (2) 家庭・地域との連携による道德教育の取組
- ア 図書ボランティアによる全校読み聞かせ道德集会を行う。
 - イ 地域の農家の方や保護者と共に進める伝統的な稲作体験をする。
 - ウ 地域の大先輩である宅老所「もちのき」の方々と交流する。
 - エ 保護者や地域の方の参観・参加する道德の授業公開を行う。
 - オ ハートきらきら週間（人権・いじめ・いのちについて考える）で、児童会活動を行う。
- (3) 道德教育の抜本的改善・充実に係る成果の見込み
- ア 地域・家庭生活を含めた子供理解の深まり
 - イ 「導入の工夫」「主発問」「話し合いを深める工夫」「振り返りの視点」をもとにした教師の授業力の向上
低学年・中学年・高学年と発達段階を考慮した道德の授業の在り方。
 - ウ 研究授業での子供の姿の記録や振り返り（きらきらノート）をもとにした評価方法の共通理解
 - エ 体験活動をもとにした子供の郷土愛の高まり
 - ・ 地域教材の開発
 - オ 全校道德集会を通して、地域の方や異学年の友達の考えを知る。
 - カ 地域の農家の方や保護者と共に行う作業での協働作業や対話、講話などを通して、地域や家庭の思いに触れる。
 - キ お年寄りとの交流を通して、三和の伝統や文化、地域の方々の思いを知り、家族や郷土を愛する心を高める。
 - ク 全校で人権やいじめ、いのちについて考える集会や授業を通して、児童同士が互いを尊重し、思いやりの心をもって友達に接する。

5 研究計画

月	実施内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進委員会 道德教育の全体計画・年間指導計画作成 現職教育（道德）の方針・重点目標の設定
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究全体会（全体の概要、道德ノートの形式統一） ・ 研究推進委員会 生活科や学活の家族との関わりと道德科との関連について検討 「総合的な学習の時間（みつわ学習）」と道德科との関係について検討 ・ 5.30 1限～4限 体験活動（講師招聘） 地域の方と関わる5年生米作り（田植え） 農家石川喜久雄氏とJA西三河職員の助言と指導 ・ 5.31 授業後 校内研修（外部講師招聘）妙喜寺住職 佐久間桂祥 氏 「地域の見守りと寺子屋の経験より」

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・教師への意識調査 ・6.6 3限 全校読み聞かせ会（外部講師^{しょうへい}招聘） 地域の図書ボランティア（代表 大滝 氏） ・3年生宅老所「もちのき」との交流活動スタート ・6.9 授業後 校内研修（外部講師招聘）愛知学泉大学 教授 前田 治 氏 「地域と関連した道徳科の教育について」指導助言 6年生の道徳授業案の検討 ・6.15 授業公開 ・6.20 校内研修（外部講師招聘）西尾市立東部中学校 校長 石川雅春 氏 5限 4年生道徳の授業研究会、授業後 研究協議会および指導助言 ・6.26 校内研修（外部講師招聘）千種区生涯学習センター 水野生康 氏 5限 5年生道徳の授業研究会、授業後 研究協議会および指導助言
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・7.12 1限～2限 体験活動 地域の方と関わる5年生米作り（かかし作り） J A西三河職員の助言と指導
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・8.21 現職教育（外部講師招聘）愛知学泉大学 教授 前田 治 氏 1学期の道徳実践の分析と今後の方向性 2学期の授業案検討会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・9.11 校内研修（外部講師招聘）愛知学泉大学 教授 前田 治 氏 5限 6年生道徳の授業研究会、授業後 研究協議会および指導助言 ・9.19 校内研修（外部講師招聘）西尾市立東部中学校 校長 石川雅春 氏 5限 1年生道徳の授業研究会、授業後 研究協議会および指導助言 ・9.21 校内研修（外部講師招聘）教科指導員 室場小学校教諭 伴 恭子 氏 5限 2年生道徳の授業研究会、授業後 研究協議会および指導助言 ・9.29 授業公開 前期の取組に対する分析と改善点の考察
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・10.3 1限～4限 体験活動（講師招聘） 地域の方と関わる5年生米作り（稲刈り） 農家石川喜久雄氏とJ A西三河職員の助言と指導 ・10.18 1限～4限 体験活動（講師招聘） 地域の方と関わる5年生米作り（脱穀） 農家石川喜久雄氏とJ A西三河職員の助言と指導
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・11.2 校内研修（外部講師招聘）教科指導員 室場小学校教諭 伴 恭子 氏 5限 3年生道徳の授業研究会、授業後 研究協議会および指導助言 ・11.29 2限 ハートきらきら集会（児童会主催） 3限 全校道徳科授業
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・教師への意識調査
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開・研究のまとめ作成（実践と成果の整理）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ作成（各学年のまとめと全体のまとめ）

6 取り組みの様子と成果

(1) 伝え合う教室を築くために

日々の授業で、以下のことについて各学級で行った。

(ア) 実態に合わせた発問の工夫（視覚支援、具体物使用、選択肢用意など）

(イ) どんな発言も大切に、みんなで考える

- ・ 発言を繰り返さず、児童が自分の声で自分の選んだ言葉で伝えることを見守る。
- ・ うなずく。「なるほど、いいね、うんうん、たしかに、…」など反応する。
- ・ 「どうしてそう思いますか」と理由を引き出す。

- ・ 「みんなはどう思いますか」と他の考えにつなげる。
- ・ じっくりと思考する時間を大切にする。
- (ウ) ネーム磁石などを利用して、発言を位置(価値)付ける。
- (エ) 1時間の授業で伝え合うための工夫をする。○導入の工夫、○話し合いを深める工夫、○振り返りの視点(具体的に書く内容を示し、学びの満足や次への意欲、評価へつなげる。)

(2) 三和地区の様子や子供理解についての講話や相談

講話 三和地区に生きる

～三和の子供たちを見つめて～

妙喜寺住職の佐久間桂祥様を講師に迎え、地域で15年間やっていた寺子屋について語っていただいた。

「寺子屋で子供たちと迎えに来る保護者を見て、次に何をしようかと考えることが楽しかった。子供たちは、生活の中で必要な知識を得ていく。その経験や感じたことを、大きくなっていろいろな人に伝えてくれると嬉しい。」と語られたことを受け、家庭と地域と学校で子供を育てることについて改めて考えた。



(3) 道徳科の授業づくり、教材研究についての助言、指導

(ア) 講話「地域と連携した道徳科教育」

学校法人安城学園愛知学泉大学こどもの生活専攻教授前田治様を講師に迎え、全職員で地域と連携した道徳科授業について学ぶ機会とした。



- ・ 教科書で学んだ内容を終末で自分の地域につなげて考える。
- ・ 地域に関わる内容項目は、A[誠実、親切、思いやり、生命尊重、自然愛護]、B[感謝]、C[勤労、公共の精神、国や郷土を愛する精神]、D[生命の尊さ、よりよく生きる喜び]等が複雑に絡み合っているので、普段の道徳の授業を実態に沿って行う。
- ・ 道徳科の授業に正解はない。何気ないつぶやきや普段の様子を大切にしながら「見えない心を育てる」を意識し、担任ならではの言葉がけをする。授業以外でも、発言に関する行動を見つけたときにこそ声をかける。
- ・ 気を付けること…特定の価値観の押し付けや主体性をもたずに言われるままに行動することは道徳教育の対極にある。

(イ) 指導案検討会

学校法人安城学園愛知学泉大学こどもの生活専攻教授前田治様を講師に迎え、研究推進委員と授業者で3つの教材研究と授業の構想について協議した。



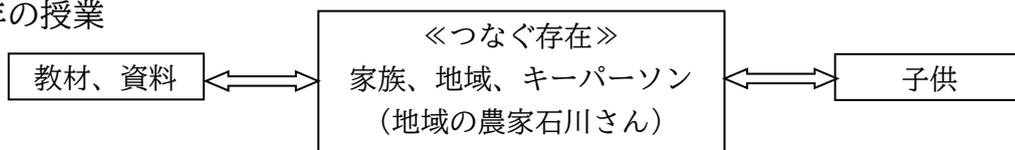
- ・ ねらいとする価値へつなげるために、教材をどのように生かすのかを中心に話し合った。「教材をいろいろな視点から考えること(多くの人で思いを話し合う)」→「教材のちがう側面が見える」と「様々なアプローチの仕方から自分はここを子供たちと話し合いたいと考えて授業を組む」を学んだ。

(ウ) 第5学年道徳科授業(研究会と講話)

名古屋市千種区生涯学習センター館長水野生康様を講師に迎え、5年の研究授業参観後、道徳について学びを深めた。

- ・ 道徳科は、「子供と教師と一緒に生き方を考えるもの」である。
- ・ 授業の中でいろいろなことに気付くことを大切にする。

- ・ 子供と向き合うこと = 子供の心の言葉をひろうこと
- ・ 5年の授業



- ・ ねらいと違うことを考えている子もよい。→きっかけを見つける機会
- (エ) 第4学年道徳科授業研究会と講話
西尾市立東部中学校校長石川雅春様を講師に迎え、道徳について学びを深めた。
- ・ 地域と連携した学習に位置付く道徳科
環境学習とつなげ、自分たちができることを考える。
豊かな心…特に「地域のすばらしさ」(ここでよかった)へつなぐ。
- ・ 伝え合うための工夫…「話し合いを深める工夫」が大切
考えの発表→①教師の用意した切り返しの前に主体的に考えさせる教師の言葉
かけ「聞きたいことなあい」「どの考え方がいい」
②ねらいとする価値に迫るゆきぶり「どうして」「共通している物は何」「〇〇さんがこう言ったけど、ここって」など
③キーワードによる焦点化
- ・ 道徳は、語らせることが大切。「未来は、話した言葉で作られる」



- (オ) 第6学年道徳科授業研究会と講話
学校法人安城学園愛知学泉大学こどもの生活専攻教授前田治様を講師に迎え、6年の研究授業参観後、道徳について学びを深めた。
- ・ 生きがいとは生きている実感(喜び)、達成感、充実感など、教員の喜び→働くヒント
- ・ 地域のボランティア(浅岡さん)は、人のため→崇高な理念へ(よい活用)
事前に打合せをして、的をえた大事な話は効果がある。
ゲストは、「導入」か「まとめ」で総合学習や自分の生き方につなげる。
- (カ) 第1学年道徳科授業研究会と講話
西尾市立東部中学校校長石川雅春様を講師に迎え、道徳について学びを深めた。



役割演技

ゲストティーチャー
保育園のときの保育士さん

- ・ よい点①工夫が盛りだくさん…導入、役割演技、ゲストティーチャー
②地域との連携は、新しい具体的な動き
- ・ 教材と発問…変容する1歩手前が大事、共感するため状況認識が必要
分析的な発問の前に共感、発問後にさらに切り返し
- ・ 役割演技……適切な演者を指名、教師がつなげる
観客こそ大事→「どうだった?」「みんなはどう?」

(キ) 第2学年道徳科授業研究会と講話

西尾市道徳科指導員伴恭子先生を講師に迎え、道徳について学びを深めた。

- ・ 日々の学級経営が大切→細かい部分に出る(教師の位置、提示物など)
- ・ 子供たちは自分の世界が全て→その考えを広げていくのが道徳
- ・ パネルシアターの効果→子供の表情を見ながら進められる
子供たちがぐっとお話に入り込む
- ・ 効果的な教師の言葉 「みんなもそう?」→全体に共有
- ・ 切り返しの補助発問→子供の「でも」「だって」と言いたがる様子へ
- ・ 発問の吟味…①いろいろな意見が出る中心発問
②ぐっと考えさせる補助発問(ずれ、かっとう、違う視点)
③空気が変わり、「?」が浮かぶように
- ・ ファシリテーター…子供たちには「発言している人を見てね」
自分は聞いている子供たちを見る
- ・ 振り返り…学びを確かめる時間
「～を知った」「～と考えた」「知っていたけど見方が変わった」
「自分の考えは確かだった」「例えば～(自分の体験)と思った」

(ク) 第3学年道徳科授業研究会と講話

西尾市道徳科指導員伴恭子先生を講師に迎え、道徳について学びを深めた。

道徳科の内容<4つの視点>	伴走者としての授業づくり
A: 弱い自分に打ち勝つ	・ 生き方の場面に触れられる(多面的)
B: 相手のことを最大限大切に	・ 様々な選択肢がある(多角的)
C: 集団の中に自分がある	・ 自己判断で生き方を切り開く
D: ちっぽけだけど大きなもの	・ 今後の生き方への発想を豊かにする

(4) 道徳科の授業の具体的な成果

(ア) 主題名 みんなの場所〔C-11 規則の尊重〕教材名「このままにしていたら」

(イ) 導入の工夫

身近にある「みんなの場所」をアンケートをもとに考え、「ふれあいの道」という言葉が出た。毎年マラソン大会をしている学校近くの遊歩道である。



(ウ) 教材文「このままにしていたら」の前半をとらえる

登場人物のペープサート、袋、空き缶やペットボトルのごみのイラストカードなどを使って語る。場面の様子が教室全体に伝わり、登場人物の様子に寄り添って聞く様子が見られた。「ビニール袋が飛んでいってしまったが取りに行かなかった場面」では、息をのむ音や何かささやく声がして、子供たちの心が動いた。

発問 ビニール袋が飛んでいってしまったとき、「ぼく」は、どうして「まあ、いいや」と思ったのか。

C: めんどく。C: 早くザリガニを取りたい。C: ちょっと遠いから。

T: 近くの人と話してみてください。

C: ごみの一つくらい、いいや。C: 一つくらい流れても川に影響はない。

教師の意図する、少くくはルールを守らなくてもよい。という気持ちまで確認したところで、次の場面へ進む。

(エ) 教材文後半の場面を確認

後半の部分を語り、場面の確認をした。

- ①「ぼく」の飛ばしたビニール袋ですべて、友達のたっくんがころんでしまったこと。
- ②友達のたっくんとゆうくんは、ごみを捨てていることに文句を言いながらゴミを拾ったこと。

看板の文字や、2人の言葉を提示し、友達の気持ちや行動を捉えた上で、「ぼく」の気持ちを考えた。



主発問 立札の文字がどんどん大きくなっていくような気がしたとき、「ぼく」はどんなことを考えたのか。

C：取りに行けばよかった。拾いに行けばよかった。

C：ぼくのせいで転んでしまった。ごめんね。ぼくが捨てたと言ったら、怒るだろうな。

C：他の人たちはなんで捨てるの？



(オ) 補助発問によって、立て札の意味（ルールの大切さ）へ考えを深める

T：たっくんとゆうくんは、ザリガニ取りに来たのに、なぜゴミ拾いをしているの？

C：ザリガニもきれいな川でないと死んでしまう。C：魚もゴミを食べてしまう。

C：自然を汚したくない。C：自然のきれいな川をこわしたくない。

C：立て札にも書いてある。

(カ) めあてに戻り、自分の生活の中の「みんなの場所」について思いうかべて考える。

ルールはあったら、守ることが正しいことは知っている。

T：めあてを確認しよう。

C：「みんなの場所」を利用するときに大切なことを考えよう

T：遊具、公民館などみんなの場所にはルールがありますか？

C：ある。

T：どんな？

C：並ぶ。C：整とんする。C：ゴミ箱へ捨てる。C：走り回らない。

T：ルールがあるのは、どうしてですか？

C：安全に使える。C：安心して使える。C：楽しく使える。

児童の考え
の深まり

ルールがあるわけを考え、大切なものだから、守りたい。

C：ごみを捨てないで、ビオトープなどをきれいにしたい。
 (校庭にあるビオトープを思い浮かべてごみを捨てない
 場所にしたいと考えた。)

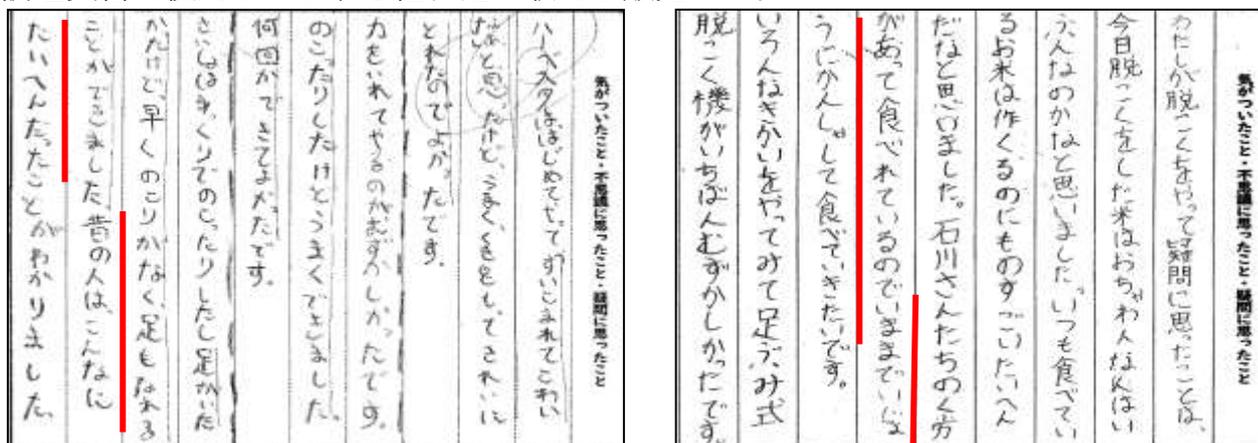
C：「ふれあいの道」はみんなのものだから、次に使う人が、
 ゴミがあると気持ちよく使えない。(地域のふれあいの
 道を「みんなのもの」と意識して、みんなが気持ちよく
 使える場所にしたいという思いをもつことができた。)



(5) 家庭・地域との連携による道徳教育の取組

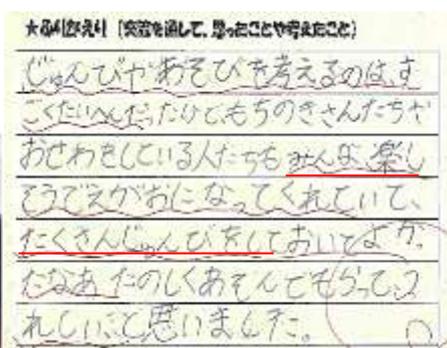
(ア) 地域の農家や保護者と共に進める稲作体験

米づくり学習は、5年生が、地域の農家の方や保護者と共に行う共同作業や対話、講話などを通して、地域や家庭の思いに触れる活動でもある。体験後の振り返りでは、「米を作るには、長い期間たくさんの作業をしなくてはならない」「一生懸命育てて、おいしいお米ができるとうれしい」「教えてくださる農家の方や一緒に作業をしたPTAの方々に感謝する」「何十年も三和小の学びのために、稲作体験学習をしてくれるなんてすごい」という思いを多くの児童がもつことができた。また、児童が作った米は、全校に配付したり調理実習で使用したりする他、道の駅でも販売した。



(イ) 地域の宅老所「もちのき」の方々との交流

3年生が、学校の隣にあるふれあいセンターに集まっているお年寄りとの交流を通して、三和の伝統や文化、地域の方々のおもひを知る。ふれあい活動と道徳科の授業を並行して行うことで、本当の親切、相手の気持ちを考えた思いやりの心について考え、実際の活動につながる学習とした。



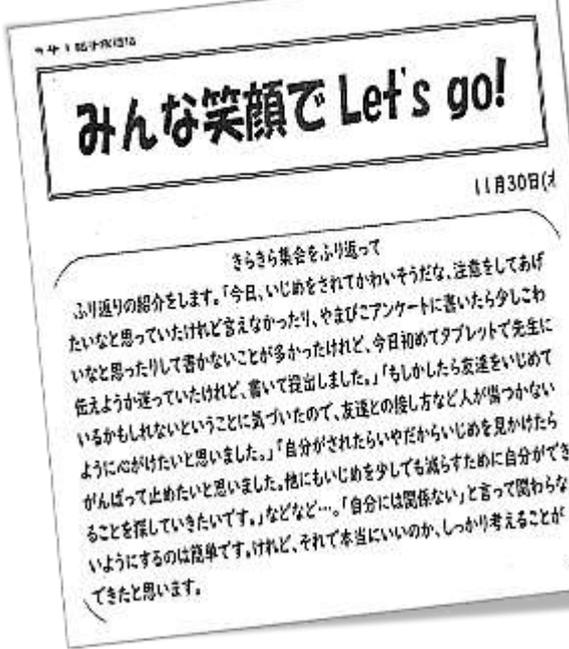
(ウ) 図書ボランティアによる全校読み聞かせ「お話玉手箱」

体育館で『はこぶぐのねがい』『ぶどう畑のアオ』の読み聞かせを行った。約15名の図書ボランティアの方が、前年度から準備した効果音や画像を使ったこの会は、全校の児童が心を動かされる時間となった。

(エ) 地元企業と年間を通して行う環境学習

4年生が、地元企業の方と一っしょに校庭や地域の自然と触れ合いながら、環境について学ぶ学習である。自然や人と関わる中で、いのちや誰もがよりよく生きる社会について興味を深め、道徳性を養う。

ハートきらきら集会和道徳科授業後の学級通信で、児童の考えを発信



同心協力

ハートきらきら集会

最近、急に気温が下がり肌寒いのがしんどくなってきました。冬国から法たかないなあと苦痛する日々が続いています。私ごとですが、先週から目が二重になりました。在学中の月曜日の朝、鏡の前で目を見たら「先生って二重になったの？」と私の顔の表情にすぐ気づきました。他の子も「目が二重」と言っていました。アイプチや二重整形もしていません（笑）私にも目が二重になった理由は分かりません。突然目が二重になりました。明日からの朝入退校会は目力が弱った二重の目でお参りしてあげよう！個人朝会会は10分程度のお時間ではありますが、学習面・生活面・来年度のことについてお話しさせていただきたいと思っております。何か相談することがありましたら、QRコードにて事前にお願いします。また、校長室は児童のための窓口が備わっており、特に朝下は非常に早くもっております。御来校をお待ちし、お気遣いをお願いいたします。

さて、直前の学級通信では、私の失敗と子供たちのすばらしさについてお話しさせていただきました。今日は「ハートきらきら集会」の内容について書いていこうと思います。ハートきらきら集会は、「いじめ」について考える集会です。ご存知の先生者の方もいらっしゃると思いますが、30年ほど前に本校の卒業生が中学生のとき、いじめをきっかけに自ら命を絶つたという悲惨な事件がありました。私と子供たちは生まれていないため、当時の様子は全く分かりません。然るに知っている石川校長先生に話を聞くと、非常に感動で言葉が出ななりました。このことは具体的な内容は書ききれませんが、もう二度と、このような出来事があってはいけません。そのため、全校児童と教職員で「いじめ」について考えようというのがこの集会の目的です。

2時間目は児童会室で劇鑑賞を行い、3時間目は各クラスで道徳の授業も行いました。私のクラスでは、校長がよよとんが書いた「わたしのいじめ」という絵本を題材にして授業を行いました。東野の絵本です。私が教員にもなると知った大事な絵本です。大人が読んででも考えさせられます。読んでみたいという保護者の方がいっぱいいらっしゃいましたら、お貸ししますのでもお返してください。

授業では、絵本をよよとんが描いた場面から、「国語の「人」を思い描いているイメージの気持ち」や校長がよよとん宛てに手紙を送ってきた「神田さんが読んだかったこと」などに焦点を絞り、考えました。子供たちは自分事として読んで真剣に考えました。この授業をきっかけに、「人の気持ちに気づいて考えるとは何か」「思いやりのある社会とは何か」を考えて進んでほしいと思います。

最後にありますが、図書室にはこのようなコーナーがあります「本の空箱」。絵本は短い文章と挿絵や写真、イラストで構成されており、作者が伝えたいことや社会問題等を誰にでも分かりやすく理解できるように工夫されています。「この絵本は一体何を読者に伝えているのか」を、実際に子供たちに勝手に取ってもらう、高じてほしいです。そして、保護者の皆様とも協力合っていたらいいなと思います。今日も最後までお読みくださり、ありがとうございました。

(キ) アンケートからみた成果

3年生は「進んで他の人に親切にする」「家の人やお年寄りに尊敬と感謝の気持ちをもって接する」、4年生は「きまりを守る」「自他の命あるものを大切に」「自然や動植物を大切に」でよい効果が見られ、研究に取り組んだ内容項目について成果があった。

高学年は、「意見を伝え、相手を大切に」「自他の命を大切に」「みんなでよい学校を」などの内容項目で効果があり、周りに関わり、協力し合ってよりよく生きようとする心が育ち始めたようであった。

教職員は、家庭や地域社会と連携した道徳教育に関する指導法の工夫の仕方や、話し合いを深め合う授業力の向上が見られた。

7 課題について

今年度扱っていない地域の人や物や歴史などを調べてよりよく関わっていく計画が必要である。また、互いが思いを伝え合い、認め合うためには、スキルだけでなく学級経営が大切である。心のゆとりをもって、教師も児童もよりよい学校生活を目指して研究を進めることができる計画を工夫していきたい。